

令和3年度

教育に関する事務の管理及び
執行状況の点検及び評価報告書

令和4年9月

根室市教育委員会

目 次

I	はじめに	P 1
II	点検評価の基本方針	P 1
III	点検評価の結果	P 3
	(1) 社会を生きる力の育成	P 3
	(2) 豊かな人間性と健やかな体の育成	P10
	(3) 子どもを育てる環境づくりの充実	P18
	(4) 生涯学習活動の充実と文化・スポーツの振興	P23
	学識経験者の意見（総評）	P29

I はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされております。

本報告書は、同法に基づき教育委員会が行った令和3年度事務事業の点検評価の結果をまとめたものです。

II 点検評価の基本方針

1 目的

教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況を自ら点検評価し、その結果を議会に報告するとともに市民に公表します。

この点検評価は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たしていくことを目的としています。

2 点検評価の対象及び方法

本点検評価の対象は、本委員会が所管する全ての事務事業とし、教育行政の取組方針として毎年策定する教育行政方針に掲げられた主な施策の執行状況等について点検評価することといたします。

3 学識経験者の知見の活用

本点検評価の実施にあたっては、地教行法第26条第2項の規定により、3名の学識経験者から個別に意見を伺い、その知見の活用を図りました。

なお、学識経験者は、学校教育分野及び社会教育分野において教育や人材育成に携わり、高い見識を有する方から選任し、幅広い観点での知見を活用するよう努めたところです。

○ 小林 淳一 氏 北海道教育大学釧路校准教授

○ 原田 純子 氏 根室市社会教育委員長

○ 谷川 昭次 氏 根室市PTA連合会会長

〔参 考〕

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅲ 点検評価の結果

(1) 社会を生きる力の育成

教育行政方針

このたびのコロナ禍の中でGIGAスクール実現が加速し、子どもたちに個別に最適化された質の高い学びを提供できる環境が整ったことは、学校にとって大きなチャンスであり、これを単なるインフラ整備に終わらせず、今後、一人一人のニーズに応じたきめ細かな指導や学びに結び付けていくことが大切です。

また、新学習指導要領が、昨年度の小学校に続き中学校においても完全実施されることから、その趣旨に基づき、子どもたちが将来にわたって社会を生きる力を養うため、知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力の育成に取り組むとともに、ニーズに応じた個別支援により、特性や障がいにかかわらず共に学ぶインクルーシブ教育を進め、学力の向上と今後の共生社会を生きる子どもたちの育成を図っていくことが重要です。

- ① そのため、学力向上に向け、校長・教頭・教諭の代表と教育委員会で組織する学力向上プロジェクト推進会議からの提言や北海道教育委員会の各種取組などを通じ授業改善を図るとともに、特に学力下位層の範囲に含まれる児童・生徒に対する指導方法を充実させ、市全体のレベルアップにつなげてまいります。
- ② また、国や北海道からの教員加配に加え、市街地地区中学校への市独自加配や、学力向上等補助教員の採用、放課後教室・児童館指導員の小学校低学年授業補助などの工夫を図りながら、個に応じたきめ細かな学習指導を進めてまいります。
- ③ さらに、新入学児童の小学校生活の円滑なスタートや「子育てファイル“りんくす・ねむろ”」の効果的な引継ぎなど、幼稚園・保育所と小学校との連携を進めるとともに、「北海道根室高等学校教育振興会」を通じ、高等学校生徒へのパソコン配備や資格取得の支援、教員の研修事業の連携などを図り、小・中を軸とした幼・保・小・中・高の途切れのない連携を図ってまいります。
- ④ また、市内の小中学校教職員の研究組織を新たに設置し、幼稚園・保育所や高等学校とも連携しながら、研究・研修を通じて、教員の指導力の向上を図ってまいります。
- ⑤ 次に、特別な支援を要する児童・生徒の学習活動への支援については、特別支援教育支援員や介助業務員の拡充に努めるとともに、通級指導教室を花咲小学校、成央小学校に加え、新たに北斗小学校に開設し、市街地地区3小学校すべてにおいて支援の充実を図ります。

- ⑥ また、花咲港小学校校舎への道立の特別支援学校の分校・分教室誘致実現に向け、引き続き、北海道教育委員会と協議を進めてまいります。
- ⑦ そして、ICTの活用については、プログラミング教育を始めとする情報教育を推進し、また、児童・生徒へのタブレット配備を背景として、対面指導のオフライン教育とICTによるオンライン教育とを組み合わせた新たな教育実践を目指すとともに、災害や感染症による臨時休業等の際にも、最大限、学びの保障に取り組むことができるよう備えてまいります。

点検評価

教育行政方針の項目	① 全国学力・学習状況調査
<p>(執行状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学力向上プロジェクト推進会議の開催 ○ 標準学力テストの実施による学力や学習状況の把握・分析 ○ 学力向上プロジェクトの提言に基づく授業改善の実施 	
<p>(主な事務・自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年度に向けた学力向上プロジェクト推進会議の「個人思考」と「集団思考」を取り入れ、全校・全学級で対話ができる集団に」の提言のもと、全ての小中学校で授業改善に取り組んだ。 ○ 学力向上プロジェクト推進会議において、市内の学力について標準学力テストの結果をもとに市内の学力の把握・分析をもとに、令和4年度に向け「好奇心をもって授業のぞむ子どもの育成」を提言した。 ○ 令和3年度全国学力・学習状況調査問題に全校で取組み、学力向上プロジェクト推進会議で学力の把握・要因分析を行い、各校で課題を洗い出し、授業改善を図った。 ○ 国の授業改善推進チーム活用事業を活用し、教員3名による巡回チームが北斗小学校、花咲小学校、成央小学校を巡回して教員の授業改善に取組み効果を上げている。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善推進チーム活用事業教員定数加配 北斗小、花咲小、成央小に各1名 	
担当課・担当	学校教育指導室・教育総務課学校教育担当

教育行政方針の項目	② 個に応じたきめ細かな学習指導
<p>(事業の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学力向上等補助教員の配置による習熟度別指導・チーム・ティーチングの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上補助教員の配置 6名(市内5校、歯舞学園に各1名) ○ 新たに放課後教室・児童教室指導員による小学校低学年の授業補助の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・フルタイム会計年度任用職員の放課後教室等指導員18名を北斗小、花咲小、成央小、歯舞学園の低学年に午前中の2時間を支援員として配置した。 ○ 国や北海道における各種支援事業の教員加配を積極的な活用 <ul style="list-style-type: none"> ・指導方法工夫改善加配 ・退職教員等の外部人材活用事業時間講師の配置 	
<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学力向上等補助教員を6校に配置を予定していたが、教員を目指す若者の減少により4名の確保にとどまり、当初予定した効果を十分にあげることができなかった。 ○ 放課後教室等の指導員を活用し、北斗小、花咲小、成央小、歯舞学園の1年生を中心に、午前中の2校時・3校時に授業支援を行った結果、落ち着いて授業を受ける態度の定着が図られたとともに、学校と放課後教室等の連携が深まった。 ○ 授業改善推進チームの加配教員の巡回により、若手の多い市街地小学校3校の教員の指導力向上が図られた。 ○ 指導方法工夫改善加配等の定数加配を活用した、きめ細かな学習指導により学力向上に向けた取組みを進められた。 <ul style="list-style-type: none"> ・指導方法工夫改善定数加配 北斗小学校 1名、花咲小学校 1名、光洋中学校 1名、柏陵中学校 1名 ・退職教員等の外部人材活用事業時間講師の配置 北斗小学校 1名、柏陵中学校 1名 	
担当課・担当	教育総務課学校教育担当・学校教育指導室・社会教育課社会教育担当

教育行政方針の項目	③ 幼・保・小・中・高の途切れのない連携
<p>(事業の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校と中学校についても更なる連携推進に努める ○ 幼、保、小、中それぞれの段階において、「いままで」の学習内容をしっかりと定着させ、「これから」の学習内容を着実に積み上げていくことができるよう、個々の子どもたちが必要とする支援に努める ○ 新入学児童の小学校生活の円滑なスタートを図るための接続カリキュラムの充実 ○ 「子育てファイル”りんくす・ねむろ”」の効果的な引継ぎによる幼・保・小学校との連携推進 	
<p>(主な事務・自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 幼保小連携会議を中心に幼保小の連携を一層深められた。 ○ 中学校区の連携を進める新たな組織、「根室市学校連携教育研究会」を組織し、小中学校種間連携の推進を図るとともに、幼保小中それぞれの段階において子どもたちが必要とする支援ができるよう、学校の指導・助言を行った。 ○ 幼保小連携研修会、一日体験入学を実施することにより新入学児童を迎えるためのスタートカリキュラムを各小学校で実施、円滑な小学校生活のスタートにつながった。 また、昨年同様に幼保と小学校の児童の引継ぎを文化会館で一堂に会し効率的に行うことが出来た。 ○ 幼保の保護者に「子育てファイル”りんくす・ねむろ”」の活用説明会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。 ○ 長期休業中における高校生を講師とする学習会を光洋中学校で開催。 ○ 小中高の初任者研修会を年3回実施することができ、学力向上プロジェクト推進会議に根室高校の教諭がオブザーバー参加するなど、根室の教育の小中高の一貫教育の推進につながった。 	
担当課・担当	学校教育指導室・教育総務課学校教育担当

教育行政方針の項目	④ 学力先進地の視察・教員招聘と研究組織による指導力向上
<p>(事業の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学力向上プロジェクト推進会議による学力向上先進地視察研修 <ul style="list-style-type: none"> ・教員 11名、事務局 2名 ○ 学力向上先進地からの講師招聘による模擬授業による指導力向上研修 <ul style="list-style-type: none"> ・招聘教員 3名 ○ 市内小中学校教職員を中心に教育課題に取り組む体制として、根室市学校連携教育研究会を設立 	
<p>(主な事務・自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学力先進地への視察研修並びに先進地からの講師招聘を中止したが、代替として、石川県羽咋市教育委員会の学務担当課長に「授業改善の取組」をテーマとしたオンライン講話を実施し、学力向上プロジェクト員が、授業改善と教員の意識改革について研修し、子どもたちが主体的に学ぶための授業改善の意識づけられた。 ○ 地区（全6地区）ごとでのテーマに沿った視察や研修、調査・分析を進めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・光洋地区（光洋中、成央小、花咲小、花咲港小） <ul style="list-style-type: none"> 【テーマ】互いの学校について理解し、小中の連携を強化する研修を進める。 ・柏陵地区（柏陵中、北斗小） <ul style="list-style-type: none"> 【テーマ】対話的な活動の充実を目指して ・歯舞地区（歯舞学園） <ul style="list-style-type: none"> 【テーマ】子ども達が主体的に取り組むことができる学習課題の設定・対話活動の充実 ・海星地区（海星小中学校） <ul style="list-style-type: none"> 【テーマ】9か年を見通した主体的・対話的に深く学ぶ児童生徒の育成 ・厚床地区（厚床小中学校） <ul style="list-style-type: none"> 【テーマ】「仲間と共に学び合う子どもの育成」～目的を明確にした交流活動を通して～ ・落石地区（落石保・落石小・落石中） <ul style="list-style-type: none"> 【テーマ】ふるさと学習の体系化 / 学習規律・ルール、家庭学習の連携 ※ 校区ごとに、学力向上プロジェクトの提言を踏まえ、授業改善に向けての研修を深め、推進。また、児童生徒の実態を考慮し、生徒理解を図りながら、小中学校等の連携を進めた。 	
担当課・担当	学校教育指導室・教育総務課学校教育担当

教育行政方針の項目	⑤ 特別な支援を要する児童・生徒の学習活動の支援と通級指導教室の開設
<p>(事業の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 通常学級在籍で特別な支援を要する児童・生徒の学習活動を支援し、教員の円滑な授業をサポートするため、特別支援教育支援員や介助業務員の拡充に努める。 ○ 新たに放課後教室・児童教室指導員による小学校低学年の授業補助の実施 ・フルタイム会計年度任用職員の放課後教室等指導員18名を北斗小、花咲小、成央小、歯舞学園の低学年に午前中の2時間を支援員として配置した。(再掲) ○ 週に数時間の特別な支援を行う通級指導教室を、現行の花咲小学校、成央小学校に加え、新たに北斗小学校に開設し、支援の充実を図る。 	
<p>(主な事務・自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市内小・中・義務教育学校10校に特別支援教育支援員14名、介助業務員を1校1名に配置し、通常学級に在籍する支援を必要とする児童生徒の支援充実を図った。 ○ 放課後教室等の指導員を活用し、北斗、花咲、成央小、歯舞学園の1年生を中心に、午前中の2校時・3校時に授業支援を行った結果、通常学級に在籍する支援を必要とする児童の支援の充実を図った。 ○ 北斗小学校に通級指導教室を開設し、花咲小学校、成央小学校と合わせ48名の児童の通級指導が行われ、特別支援教育が充実した。 	
担当課・担当	学校教育指導室・教育総務課学校教育担当・社会教育課社会教育担当

教育行政方針の項目	⑥ 道立特別支援学校分校・分教室の誘致
<p>(事業の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童・生徒が、個々の特性に応じた適切な支援を受けることができるよう、道立特別支援学校分校・分教室の当市への誘致実現に向け、引続き北海道教育委員会に要望する。 	
<p>(主な事務・自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまで、道知事、道教育長などに特別支援学校の分校・分教室の誘致要望をおこなってきたところであるが、道教委から、道財政のひっ迫から特別支援学校の統合の方向性について示されているが、引き続き協議を進めていく。 	
担当課・担当	学校教育指導室・教育総務課学校教育担当

教育行政方針の項目	⑦ 対面指導によるオフライン教育とICTによるオンライン教育を組み合わせた教育実践
<p>(事業の概要)</p> <p>○ プログラミング学習に向けた教材導入のほか、大型モニタ、Wi-Fi 環境の増強のほか、WEBカメラの導入によるオンライン学習の充実を図った。</p>	
<p>(主な事務・自己評価)</p> <p>○ 情報教育の推進に向け、ソフト・ハード面において、さらなる環境整備の充実が図られ、情報教育を実践する環境が整備された。</p>	
担当課・担当	学校教育指導室・教育総務課学校教育担当

(2) 豊かな人間性と健やかな体の育成

教育行政方針

インターネットを通じたいじめの増加や、新型コロナウイルス感染症にかかわる誹謗中傷の発生が危惧される中、子どもたちの健やかな成長のためには、尊重し合い思いやる心や、自己肯定感、規範意識を育むとともに、充実した人生を送るための基盤となる健康の保持増進や体力の向上が重要です。

また、将来、郷土根室を支える人材として、郷土を深く理解する教育にも積極的に取り組む必要があります。

- ① そのため、道徳科を要に、学校における教育活動全体を通じて、子どもたちが自らの生き方を主体的に考え、行動し、自立した社会人として成長していくための基礎となる道徳性を養い育ててまいります。
- ② また、子どもたちがいじめについて考え、行動する力を育むため、高等学校とも連携しながら、全小中学校の代表が参加する「子ども会議」を開催するなど、いじめについての啓発・学習活動を通じた望ましい人間関係の形成と、いじめの未然防止・早期発見・適切な対応に努めてまいります。
- ③ さらに、タブレット配備を活用し、学校で学びたくても学べない不登校等の児童・生徒に対する学びの保障に努め、子どもたちの多様な特性に応じたきめ細かな支援や対応を図ってまいります。
- ④ 次に、学校の教育活動全体を通じて男女平等教育を進めていくため、全小中学校において性別によらない「男女混合名簿」を導入するなど環境を整備し、個人の尊厳と男女平等に関する教育を進めてまいります。
- ⑤ また、各家庭でゲーム機や携帯などの電源を切る時間を決める「スイッチオフ22」や「生活リズムチェックシート」などの活動を続け、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、子どもたちがトラブルの被害者や加害者にならないよう、ネット利用に関する家庭のルールづくりを促進してまいります。
- ⑥ 次に、コロナ禍の影響もあり、子どもたちの体を動かす機会が減少し、体力低下が懸念されていることから、感染症対策に配慮しながら、スポーツや遊びを通じた体力向上機会の創出に取り組んでまいります。

- ⑦ また、文化・スポーツにおける児童・生徒の活躍を支援する「みらいのアスリート・アーティスト応援事業」を引き続き実施し、各種大会への参加助成や講演、講習、企画展など鑑賞・体験機会の充実に努め、日本や世界で活躍するアスリート・アーティストを目指す子どもたちを育ててまいります。
- ⑧ さらに、子どもの読書活動については、妊産婦への「マタニティブック事業」から乳幼児の「ブックスタート事業」、そして新1年生への「セカンドブック事業」へと続く「子どもブックライフ応援事業」を引き続き実施し、乳幼児から学童期まで途切れることなく、子どもたちがさまざまな本と出会い、学習や交流が広がるよう支援してまいります。
- ⑨ 次に、ふるさとにかかわる教育については、北方領土返還要求運動原点の地として、北方領土に対する理解を一層深め、正しい歴史認識と主体的に考える気持ちを育み、未来に向けて考えていく態度を養ってまいります。
- ⑩ また、自然、歴史、産業など、地域の持つ魅力や特性について深い学びを実践し、また、「ふるさと給食」の実施により地域食材を通じてふるさとの豊かさを実感することで、郷土を理解し、愛する気持ちを育み、その発展に貢献する意欲や態度を育ててまいります。
- ⑪ そして、子どもたちが千島海溝沿い巨大地震や近年各地で発生する大規模風水害などから、自らの身を守るために必要な知識や能力等の育成に向けて、市長部局や地域と連携した防災教育の一層の充実に努めてまいります。

点検評価

教育行政方針の項目	① 道徳性の涵養
(執行方針)	
○ 新学習指導要領に基づく「特別の教科道徳」を要とした道徳性の涵養	
(主な事務・自己評価)	
○ 「特別の教科道徳」において、「考え、議論する道徳科の授業」を目指し、児童生徒が自己の生き方を見つめ、主体的に考え、行動し、自立した人間として成長していくための基盤の育成を図った。	
担当課・担当	教育総務課学校教育担当・学校教育指導室

教育行政方針の項目	② いじめ対策に向けた子ども会議の開催 ③ 不登校等の児童・生徒に対する学びの保障
(執行方針) ○ 根室市いじめ防止基本方針に基づくいじめの未然防止・早期発見・早期対応 ○ 根室市青少年問題協議会いじめ対策専門部会におけるいじめ防止対策 ○ 根室市子ども会議の開催 ○ 不登校等児童・生徒の学びの保障に向け、タブレット端末を活用した学習を実施	
(主な事務・自己評価) ○ 根室市いじめ防止基本方針に基づき、教育委員会・学校・家庭・地域が連携しながらいじめの未然防止・早期発見・早期対応を行った。 ○ 根室市青少年問題協議会いじめ対策専門部会におけるいじめ防止等に関する機関・団体の連携を図った。 ○ いじめについて子どもたち自らが考える「子ども会議」では、SDGsの「ジェンダー平等」の視点から「学校における『ジェンダー平等』」をテーマに話し合いがされ、根室高校演劇部による「ジェンダー平等な学校とは？」と題した演劇鑑賞、その後の協議から、「みんな違っていい！」という方向性が導かれた。 ○ 国の教職員定数の加配による、いじめを始めとした生徒指導体制の充実を図った。 ・児童生徒支援教員加配 3校3名 (成央小、光洋中、柏陵中) ○ 青少年相談室及び学校教育指導室でいじめ相談を受けるとともに、相談者の支援や学校への指導・助言を行った。 ○ ホームページに「いじめ相談室」を開設し、電子メールによる相談受付体制をとった。 ○ 不登校等の児童・生徒へのタブレット端末を貸出(6校14名)するとともに、適応指導教室において、タブレット端末を活用した指導を実施。不登校等の児童・生徒との関わりを持つとともに、子どもたちの学びの保障につながった。	
担当課・担当	教育総務課学校教育担当・学校教育指導室

教育行政方針の項目	④ 男女平等教育
<p>(執行方針)</p> <p>○ 男女混合名簿を小中学校で実施。</p>	
<p>(主な事務・自己評価)</p> <p>○ 呼名が「～くん」「～ちゃん」「～さん」など、呼び方も様々であったものを男女平等に「～さん」に統一した。</p> <p>○ 男女平等教育の指導資料を教育課程の年間計画に組入れて男女平等教育を実施した。</p>	
担当課・担当	教育総務課学校教育担当・学校教育指導室

教育行政方針の項目	⑤ 基本的な生活習慣の確立
<p>(執行方針)</p> <p>○ 「スイッチオフ 22」や「生活リズムチェックシート」の活用による基本的な生活習慣の確立</p> <p>○ 子どもたちがトラブルの被害者や加害者にならないよう、ネット利用に関する家庭のルールづくりの促進</p>	
<p>(主な事務・自己評価)</p> <p>○ 根室地方PTA連合会等との共同により、生活リズムの確立に向け、「スイッチオフ 22」や「生活リズムチェック」等を実施し、児童生徒の生活習慣の確立に努めた。</p> <p>○ 各学校において児童生徒の基本的な生活習慣の確立に向け、児童生徒の指導を行うとともに、保護者に対する啓発の取組みを積極的に図った。</p> <p>○ インターネットネットの正しい使い方や年齢に則した使用時間について、家庭におけるルール作りや、フィルタリングサービスの必要性についてのチラシを配布し啓発を図った。</p>	
担当課・担当	教育総務課学校教育担当・学校教育指導室 社会教育課社会教育担当

教育行政方針の項目	⑥ 子どもの体力向上
<p>(執行方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちの体力向上に向けた「1校1実践」の取組 ○ スポーツ少年団・スポーツクラブの育成・支援、指導者の養成 	
<p>(主な事務・自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校における体育の授業改善を行うとともに、体力づくりのための「1校1実践」を行い、子どもたちが楽しみながら体力向上に資する取組みとなった。 ○ スポーツ少年団・スポーツクラブ活動の環境整備や「スポーツ少年団指導者制度移行」等に関する説明会等を開催し、継続運営できるようサポートを実践した。 ○ 未就学児から小学小学生を対象として、ボール競技の楽しさや技術向上の機会を提供するため、元トップアスリートによる「SOMPO ボールゲームフェスタ」を開催する予定であったが、「新型コロナウイルス」感染拡大防止のため中止とした。 	
担当課・担当	教育総務課学校教育担当・学校教育指導室・社会体育課社会体育担当

教育行政方針の項目	⑦ 未来のアーティスト・アスリート応援事業
<p>(執行方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文化分野の児童・生徒の活躍を支援する「未来のアーティスト応援事業」の実施 ○ スポーツ分野の児童・生徒の活躍を支援する「未来のアスリート応援事業」の実施 	
<p>(主な事務・自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ (アーティストの事務・自己評価) <ul style="list-style-type: none"> 市内児童・生徒が文化の分野において、世界で活躍できる可能性を広げる幅広い分野の事業実施に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・支給人数など <ul style="list-style-type: none"> 全道大会出場(ピアノ)に伴う助成金を交付 1件 13千円 ・講演会実施回数参加人数など <ul style="list-style-type: none"> (1) 中嶋朋子朗読と根室高校演劇公演トーク・コミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> 概要：朗読を通して幅広い視野と想像力を育てるとともに、演劇活動の能力を伸ばし、演劇文化についての理解を深められた。 ①開催日 R3.10.17 <ul style="list-style-type: none"> ・根室高校演劇公演 ・中嶋朋子と根室高校演劇部によるトーク・コミュニケーション 	

<ul style="list-style-type: none"> ・中嶋朋子朗読 ②観覧者数 220名 <p>(2) 全国大会出場に伴う横断幕作成</p> <p>3件 88千円</p>	
<p>○ (アスリートの事務・自己評価)</p> <p>コロナ禍の影響で申請件数が減少した前年度と比較すると今年度は申請件数が増加した。申請内容を精査し条例及び内規に基づき適正に処理したところ、助成人数及び助成金額がともに倍増し、スポーツにおける児童生徒の活動を後押しとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成人数：182名（選手109名、引率73名） ・助成金額：2,715,200円 ・講演会： <p>冬季オリンピックスピードスケート金メダリスト「清水宏保」氏を講師に迎え、市スケート大会に合わせ子ども対象のスケート教室及び講演会を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。</p>	
担当課・担当	公民館事業担当・社会体育課社会体育担当

教育行政方針の項目	⑧ 子どもの読書活動の推進
<p>(執行方針)</p> <p>○ 第2期「根室市子ども読書活動推進計画」に基づく「子どもブックライフ応援事業」の取り組み</p>	
<p>(主な事務・自己評価)</p> <p>○ 「子どもブックライフ応援事業」で、子どもたちの本との出会いや交流の場を支援し読書活動の推進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「マタニティブック事業」 120件、120冊 執行率100% ・「ブックスタート事業」 12回、126組 執行率100% ・「セカンドブック事業」 市内6小学校1学年児童165名 執行率100% ・「絵本講演会」 11月14日～15日 講師「ねむろんろん」作者 こしだミカ氏、村中李衣氏 <ul style="list-style-type: none"> ①カルタ大会 42名 ②講演会 50名 	

③学校講演会 落石小学校41名 花咲港小学校13名	
・ちいさい子のおはなし会（毎週火曜日）	25回、164名
・土曜おはなし会（毎週土曜日）	33回、206名
・こどものつどい（等身大人形劇）	2回公演、109名
・親子読書会	14回、211名
・読書推進学校等訪問事業	14件、582名
・図書館訪問調べ学習受入	8件、160名
・学級文庫ブックバンク事業	69学級 参加率82%
※新型コロナウイルス感染防止対策を施して事業を推進した。	
担当課・担当	図書館

教育行政方針の項目	⑨ ふるさとに関わる教育
（執行方針）	
○ 学校におけるふるさと学習の取組	
○ 北方領土返還要求運動原点の地として、正しい歴史認識と主体的に考える取組	
（主な事務・自己評価）	
○ 全ての学校で地域学の実践を進め、児童生徒が郷土根室の歴史や自然、産業などの魅力を理解し、郷土を愛する気持ちを育んだ。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯舞学園における歯舞学の実践 ・ 落石小・落石中におけるオクチシ学の実践 ・ 海星小中学校におけるアサリ学習、 ・ その他、各校での北方領土や漁業についての学習 	
○ 北方領土問題をテーマとした弁論大会の実施し理解を深めたほか、北方領土返還要求運動原点の地として全国に向けた啓発活動への参画し、主体的に考える契機となった。	
担当課・担当	教育総務課学校教育担当・学校教育指導室

教育行政方針の項目	⑩ ふるさと給食
(執行方針)	
○ 地場産品を活用した「ふるさと給食」の実施	
(主な事務・自己評価)	
○ 食育の一環として「ふるさと給食」の実施により、地域の生産品を通じてふるさとを理解し、その発展に貢献する意欲や態度を育成した。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 9月 豚丼、真鱈すり身汁、ハスカップゼリー ・ 12月 カニカレー、昆布入りサラダ、別海ヨーグルト、別海コーヒー牛乳 ・ 2月 鹿肉ジジンスカン、鉄砲汁、飲むヨーグルト 	
担当課・担当	教育総務課学校教育担当

教育行政方針の項目	⑪ 防災教育
(執行方針)	
○ 児童生徒が自然災害から身を守るための知識・能力等の育成に向けた防災教育の充実	
(主な事務・自己評価)	
○ 発生が危惧される千島海港沿いの巨大地震や大津波など、自然災害から身を守るために必要な知識や能力等の育成に向け、市長部局や地域と連携した防災・減災教育の充実を図った。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災教室の開催 9校 ・ 防災キャンプの実施 中止（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため） ・ 学習指導要領に基づく防災学習の実施 	
担当課・担当	教育総務課学校教育担当・学校教育指導

(3) 子どもを育てる環境づくりの充実

教育行政方針

本年1月に柏陵中学校が旧根室西高等学校校舎に移転し、4月からは光洋中学校と啓雲中学校とが統合し、市街地中学校の2校体制がスタートするところであり、今後とも、児童・生徒数の推移や多様化する教育ニーズ等に対応するため、適切な教育環境の整備と教育機能の維持向上を図っていくことが重要です。

また、地域で子どもを育てる取組を充実させ、さまざまな交流・体験を積み重ね、豊かな感性や情操を育成していくことが大切です。

- ① そのため、現啓雲中学校校舎を改修し、令和4年度に花咲小学校を移転して耐震化に対応するとともに、隣接して花咲放課後教室を建設し、教育環境の整備を図ってまいります。
- ② また、子どもたちの学校生活にかかわりの深い個所について必要な改修を重点的に実施し、安全で安心に学ぶことのできる学校環境の整備に取り組んでまいります。
- ③ さらに、保護者や地域全体で子どもたちの成長を支える体制の整備を目指し、「コミュニティ・スクール」を歯舞学園に導入し、専門的な知識・経験を有する人材を活用しながら、学校運営の改善・充実を図り、教職員の働き方改革や地域コミュニティの活性化につなげていくとともに、(仮称)「根室市コミュニティ・スクール推進協議会」を組織し、全市的な導入に向けた取組を進めてまいります。
- ④ 次に、中学校を含めては道内35都市で初となる、給食費の完全無償化を実施し、子育て世代の負担軽減を図るとともに、献立の改善に努め、安全・安心な学校給食を提供する環境を整備してまいります。
- ⑤ また、狭隘で老朽化が進む北斗・成央・光洋の3学校給食共同調理場を集約するセンター化の早期実現に向け、民間活力の導入なども含め、引き続き調査研究を進めてまいります。
- ⑥ 次に、全国的に教員を目指す若者が減少し人材の確保が難しくなっているという新たな課題も顕在化している中、「学校における働き方改革のための業務改善計画」を改訂し、業務量を適切に管理するなど、学校と連携して教員の在校時間の縮減に取組み、働き方改革を進めてまいります。
- ⑦ また、民間活力の導入により昨年度までに4棟16戸を整備した教員専用アパートについては、さらなる整備を進め、教員の住宅環境の向上を図ってまいります。

- ⑧ 次に、児童・生徒の人間関係やいじめ、家庭の育児放棄や虐待など、さまざまな課題に対応し、その解決を図るため、教育委員会事務局に担当主幹を配置し、併せて高等学校との各種連携の企画運営に当たってまいります。
- ⑨ また、学校のICT化が進展する中、教育委員会事務局職員で横断的に構成するワーキンググループにより動画等のコンテンツを作成し、根室の素材を活用した学習教材づくりに取り組んでまいります。
- ⑩ そして、引き続き、すべての子どもたちが安全・安心に放課後を過ごすことができる居場所づくりに努めるとともに、子どもたちが自ら考え行動し、集団活動におけるルールやマナーなど社会性・協調性を育むよう、さまざまな体験活動の実施や、青少年活動リーダーの発掘・養成に努め、青少年の健全育成を推進してまいります。

点検評価

教育行政方針の項目	① 学校の耐震化と放課後教室の建設など教育環境の整備 ② 安全・安心な学校環境の整備
(執行方針) ○ 花咲小学校校舎の耐震化及び教育環境の充実を図るため、旧啓雲中学校校舎を改修し、令和4年度の移転に向け取り組むとともに、隣接地に花咲放課後教室を建設し、教育環境の整備を図る。 ○ 学校施設の点検を実施し、必要な補修・改善を図る。	
(主な事務・自己評価) ○ 旧啓雲中学校校舎を花咲小学校校舎に転用するために必要な改修を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 階段の両側に手摺を設置 ・ 特別教室の作業台等を小学生仕様に改修 ・ 和式便器から洋式便器に改修及びバリアフリートイレの新設 ・ エレベーターの更新 ・ グラウンド階段改修 ○ 啓雲中学校敷地に花咲放課後教室を平屋造りで建設したことにより、スペースが同心円状にレイアウトされ、子ども達が活動しやすい環境となった。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 木造平家建665.77平方メートル、遊戯室1室、活動室2室、職員室等を整備 	

○ 学校施設や教室内など、破損、危険個所の点検を実施、必要な補修・改善に努めた。	
担当課・担当	教育総務課総務担当・社会教育課社会教育担当

教育行政方針の項目	③ コミュニティ・スクールの試行
(執行方針)	
○ 地域全体で子どもたちの成長を支える「コミュニティ・スクール」の本格導入に向けたモデル試行の実施	
(主な事務・自己評価)	
○ 歯舞学園に「コミュニティ・スクール」の本格導入に向け、モデル試行を実施した。新年度は全中学校校区に学校運営協議会を設置する。	
担当課・担当	教育総務課学校教育担当・社会教育課社会教育担当

教育行政方針の項目	④ 学校給食費の無償化
(執行方針)	
○ 学校給食費の完全無償化を実施し、子育て世代の経済的負担軽減を図る	
(主な事務・自己評価)	
○ 学校給食費の完全無償化の実現(対象人数 1, 564名(R3.5.1現在))	
○ アレルギーがあり、給食をとることができない児童・生徒の保護者へ、給食費相当額を支給	
担当課・担当	教育総務課学校教育担当

教育行政方針の項目	⑤ 給食調理場のセンター化
(執行方針)	
○ 老朽化が進む北斗・成央・光洋の3学校給食共同調理場を集約するセンター化について、引き続き早期の実現に向けた調査研究を進める	
(主な事務・自己評価)	
○ 給食調理場のセンター化について、直営のほか、公設民営、民間委託など、あらゆる角度から検討を進めた。	
担当課・担当	教育総務課学校教育担当

教育行政方針の項目	⑥ 学校における働き方改革
<p>(執行方針)</p> <p>○ 「学校における働き方改革のための業務改善計画」に基づく教員の時間外勤務等の縮減への取組み</p>	
<p>(主な事務・自己評価)</p> <p>○ 「学校における働き方改革のための業務改善計画(第2期)」の策定を行い、具体的な重点目標を掲げ、教職員の時間外在校等時間(超過時間)については、1か月で45時間以内、1年間で360時間以内を目標として、校長会等と連携して時間外勤務の縮減に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出退勤管理システムによる時間外在校等時間(超過時間)の計測及び公表 ・スクールサポートスタッフの全校配置 12校(小中併置校は1校でカウント) 	
担当課・担当	教育総務課総務担当

教育行政方針の項目	⑦ 教職員専用アパートの整備
<p>(執行方針)</p> <p>○ 民間活力の導入による教員専用アパートの整備を進め、教職員の住宅環境向上を図る</p>	
<p>(主な事務・自己評価)</p> <p>○ 民間活力導入により、新たに2棟8戸の教職員専用アパートを整備し、教職員の住宅環境向上と市の財政支出の抑制が図られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年8月 2棟8戸完成・供用開始 ・令和3年3月 2棟8戸完成(供用開始は令和3年4月) ・令和4年3月 2棟8戸完成(供用開始は令和4年4月) 	
担当課・担当	教育総務課総務担当

教育行政方針の項目	⑧ 教育支援担当主幹の配置
<p>(執行方針)</p> <p>○ 児童生徒の人間関係やいじめ、家庭の育児放棄や虐待など、様々な課題に対し、その解決を図るため、教育委員会事務局に担当主幹を配置。併せて高等学校との各種連携の企画運営にあたる。</p>	

(主な事務・自己評価)	
○ 教育委員会事務局に教育支援担当主幹を配置し、関係機関と連携を図りながら学校現場に助言を行うとともに、中学校と高等学校の連携による事業運営を補助した。	
担当課・担当	教育支援担当主幹

教育行政方針の項目	⑨ ICTを活用した学習教材の提供
(執行方針)	
○ ICT端末を活用した学習教材の制作・提供	
(主な事務・自己評価)	
○ 教育委員会事務局内で横断的に組織するワーキンググループの発案により、根室の自然や防災をテーマとした学習コンテンツのほか、高校演劇部と連携した、新型コロナウイルス感染症やジェンダー平等をテーマとした動画を制作。市内各学校の道徳の授業で学習素材として活用された。	
担当課・担当	教育総務課学校教育担当

教育行政方針の項目	⑩ 青少年の健全育成
(執行方針)	
○ 子どもたちの集団活動における社会性・協調性を育むため、各種交流及び体験活動の実施	
(主な事務・自己評価)	
○ 「教えて地域の先生」では、地域の専門的な知識や経験を有するボランティア講師に小中学校の授業中で、ラジオ体操、書写、浴衣の着付けの指導を行い、「地域の先生」として子どもたちと触れ合うことで「子どもは地域で育てる」環境の醸成に努めた。 ・実施回数（光洋中など）8件 講師：延38人	
○ 青少年健全育成団体と連携し、各種事業の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、次の事業を中止した。 「根室市子ども百人一首カルタ大会」「子ども長靴アイスホッケー体験会」など。	
担当課・担当	社会教育課社会教育担当

(4) 生涯学習活動の充実と文化・スポーツの振興

教育行政方針

各種の大会や講座などを延期・中止せざるを得ない状況の中、市民一人一人が心豊かで健康な生活を送るためには、歴史・文化への理解を深め、スポーツに親しみながら、生涯を通じて積極的に学び、その成果を生かせる環境づくりが大切です。

- ① そのため、各種事業の開催に当たっては、対面方式に加えインターネットの活用なども検討しながら、市民要望や地域生活・地域課題を踏まえた各種講座を開催するとともに、効果的な学習情報の提供により市民の自主的・主体的な参画を進め、生涯学習活動の更なる活性化を図ってまいります。
- ② また、今後とも、根室市総合文化会館事業協会と連携した舞台芸術鑑賞機会の提供・充実や、根室市文化協会等との協働による市民の芸術文化活動の支援に努めてまいります。
- ③ さらに、現在図書館に開設の「飯田三郎資料展示室」について、生誕110年を見据え、総合文化会館喫茶コーナーに移転し休憩コーナー等を併設するなどの調査・研究を進めるとともに、大ホールの舞台吊物機構の改修など同館の施設整備に努めてまいります。
- ④ 次に、国指定史跡「根室半島チャシ跡群」を始めとする貴重な歴史・自然遺産を有する文化財については、その価値を次世代に伝え、適切に保存するとともに、博物館活動の推進を通じてその活用に取り組んでまいります。
- ⑤ また、国が進めるアイヌ施策に沿って、デジタル図面の作成や未指定チャシ跡の測量、歴史と自然の資料館の展示充実などに取り組むほか、スマートフォンアプリによる説明板の多言語化など、来訪者の利便性の向上に努めてまいります。
- ⑥ さらに、昨年認定された「日本遺産」については、管内1市3町の行政や観光、漁協、民間企業等の関係者で設立された「鮭の聖地メナシネットワーク」により地域ガイドの育成やモデルコースの設定などに取り組むほか、当市においても、初の企業版ふるさと納税による寄附なども財源としながら、北構保男氏寄贈のオホーツク文化資料の発信に取組み、日本遺産のブランディング化を推進してまいります。
- ⑦ 次に、スポーツの振興については、「市民一人1スポーツ」を目指し環境整備や指導者育成などに取り組むとともに、「最東端ねむろシーサイドマラソン」を市民の健康増進や体力の向上、そして、各地から訪れるランナーとの交流や地域振興、北方領土問題啓発に資する大会として開催できるよう、努めてまいります。

- ⑧ さらに、総合体育館の建設については、昨年取りまとめた基本方針を基に、基本構想の策定に向けた調査・研究を進めてまいります。
- ⑨ 最後に、図書館活動については、蔵書整備など利用環境の充実を図り、図書館ボランティアを始めとした各協力団体とも連携しながら、読書・学習活動の情報拠点施設として、市民に読書の楽しみを広げてまいります。

点検評価

教育行政方針の項目	① 生涯学習活動のさらなる活性化
(執行方針)	
○対面方式やインターネットを活用し、市民要望や地域生活・地域課題を踏まえた各種講座の開催する	
○市民の自主的・主体的な参画による生涯学習の更なる活性化を図る。	
(主な事務・自己評価)	
○ 公民館活動については、コロナ禍による講座等への参加者の不安解消のため、オンラインとオフラインの併用による各種講座を開設し、文化活動の発展・支援につなげるため、引き続き、幅広い世代にオンライン等の使用・説明について取り組む。	
○ 若ものの学園については、空手をもとにしたエクササイズ「カラテサイズ」とクリスマスに向けて「クリスマスリース作り」の2つの講座を開催したが、いずれの講座も参加者からは好評であり、今後も、様々な分野に関する講座を希望する声が寄せられた。	
担当課・担当	公民館事業担当・社会教育課社会教育担当

教育行政方針の項目	② 根室市総合文化会館における市民の芸術文化活動支援
(執行方針)	
○ 文化の振興として、根室市総合文化会館事業協会と連携し舞台芸術鑑賞機会の提供充実や、根室市文化協会・各団体等との協働による市民の芸術文化活動の支援を推進する。	
(主な事務・自己評価)	
○ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当初計画どおりの事業は実施が困難であったが、以下のとおり感染症対策を行い実施した。	

<p>(1) 感染対策を徹底し通常開催した事業 子ども書初め教室など 11 事業</p> <p>(2) 変更・縮小開催した事業 成人学校など 10 事業</p> <p>(3) 中止とした事業 根室市民大学など 8 事業</p> <p>(4) 新規・代替事業 おちゃのこさいさい（スマホ操作）など 5 事業</p>	
担当課・担当	総合文化会館管理担当・事業担当

教育行政方針の項目	③ 飯田三郎資料展示・文化会館施設整備
<p>(執行方針)</p> <p>○ 現在図書館に開設の「飯田三郎資料展示室」について、生誕110年を見据え、総合文化会館喫茶コーナーに移転し休憩コーナー等を併設するなどの調査・研究を進める。</p> <p>○ 大ホールの吊物機構の改修など文化会館の施設整備に努める。</p>	
<p>(主な事務・自己評価)</p> <p>○ 飯田三郎資料展示室移転調査企画業務 展示物・資料の調査、リストの作成、建築士による移設先（文化会館カフェテラス跡）の調査、展示データの解析、リストの作成、新資料展示室に係るコンセプト、イメージ図、設計図の作成、以上を踏まえた、新資料展示室の改修移転に係る見積、会議プレゼンテーション用資料作成</p> <p>○ 総合文化会館の施設整備については、次の整備を実施。 「大ホール舞台吊物機構改修」「小ホールスピーカー他改修」「2階ホール・階段カーペット改修」「会議室椅子購入」「動画編集用パソコン他一式購入」「大ホール他配信等環境整備」等</p>	
担当課・担当	総合文化会館管理担当

教育行政方針の項目	④ 博物館活動の推進
<p>(執行方針)</p> <p>○ 歴史・自然遺産を有する文化財について、その価値を次代に伝え、適切に保存するとともに博物館活動の推進を通じてその活用に取り組む。</p>	
<p>(主な事務・自己評価)</p> <p>○ 松本十郎の書軸・ラッコ幼獣の剥製など 1,358 点の新たな資料を収集保存した。</p> <p>○ 天然記念物カラフトルリシジミ生息地巡視、根室半島チャシ跡群の環境整備等を行い、文化財の適切な保存や活用に努めた。</p> <p>○ 収蔵した資料や標本のほか、新たに整備した実体顕微鏡を活用し、企画展、観察会などの事業を実施した。また、学芸員の調査、研究の成果等をまとめた根室市歴史と自然の資料館紀要を発行し、根室の歴史、自然の価値を次代に伝えるように取り組んだ。</p>	
担当課・担当	歴史と自然の資料館

教育行政方針の項目	⑤ 文化財調査と展示充実
<p>(執行方針)</p> <p>○ 国が進めるアイヌ施策に沿って、デジタル図面の作成や未指定チャシ跡の測量、歴史と自然の資料館の展示充実などに取り組むほか、スマートフォンアプリによる説明板の多言語化など、来訪者の利便性の向上に努める。</p>	
<p>(主な事務・自己評価)</p> <p>○ アイヌ施策推進交付金を活用し、未指定チャシ跡の立体図製作や千島アイヌ出土品の図化を行い、未活用のチャシ跡や資料の把握と活用が可能となった。また、スマートフォンで読み上げや表示が可能な多言語コードを作製し、チャシ跡説明板や歴史と自然の資料館のアイヌ関係展示に掲示し、展示の充実や利便性向上を図った。</p>	
担当課・担当	歴史と自然の資料館

教育行政方針の項目	⑥ 文化財を活用した日本遺産のブランディング
(執行方針)	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年に認定された昨年認定された「日本遺産」については、管内1市3町の行政や観光、漁協、民間企業等の関係者で設立された「鮭の聖地メナシネットワーク」により地域ガイドの育成やモデルコースの設定などに取り組む。 ○ 当市においても、初の企業版ふるさと納税による寄附なども財源としながら、北構保男氏寄贈のオホーツク文化資料の発信に取組み、日本遺産のブランディング化を推進。 	
(主な事務・自己評価)	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本遺産のガイド育成事業として管内相互受入研修、年9回にわたりオンラインセミナーを実施した。また、構成自治体ごとに「まちあるきパンフレット」やサブストーリーパンフレットを作製した。 ○ 企業版ふるさと納税を活用し、北構保男氏寄贈のオホーツク文化資料の宣伝写真を撮影し、神奈川県横浜市と大阪府河南町で開催された東京大学など主催のオホーツク文化展示会で活用し周知を行った。またピンバッジなど、オリジナルグッズの開発を行い、一部については、石川県小松市で開催された日本遺産フェスティバルに出展し、ブランディングの推進を行った。 	
担当課・担当	歴史と自然の資料館・社会教育課文化財担当

教育行政方針の項目	⑦ 指導者育成などの環境整備とシーサイドマラソンの開催
(執行方針)	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民の健康増進や体力の向上、全国から当市を訪れるランナーとの交流機会、地域振興及び北方領土問題啓発に資する競技大会を開催する。 	
(主な事務・自己評価)	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 最東端ねむろシーサイドマラソンは残念ながら「新型コロナウイルス」感染拡大の影響で2年連続の中止となったが、今年度も代替イベントとして「新しい生活様式」に即した「オンラインマラソン」を1,200人規模で実施できたほか、根室市特産品並びに北方領土問題啓発資料を全国の参加者へ発送したことなどから、地域振興と北方領土問題の啓発にも波及した。 	
担当課・担当	社会体育課社会体育担当

教育行政方針の項目	⑧ 総合体育館の建設
(執行方針)	
○ 整備基本方針に基づき、今後の基本構想策定に向けた調査・研究を進める。	
(主な事務・自己評価)	
○ 総合体育館の建設に向け、今後の基本構想策定に向け、先行事例等の調査・分析を実施した。	
担当課・担当	社会体育課社会体育担当

教育行政方針の項目	⑨ 市民の読書・学習活動の推進
(執行方針)	
○ 市民の読書・学習活動を支えるための各種事業への取組み	
(主な事務・自己評価)	
○ 新型コロナウイルス感染対策を講じた中、職員の感染もあり臨時休館したこともあったが、図書宅配サービスを実施するなど、市民の家庭における読書環境の充実を図るため様々な取組みを行った。	
・職業体験、図書館実習	3件、5名（釧路短大生、根室高校生）
・本展示コーナー	29回、展示本2,362冊
・図書館カフェ	4回、参加者125名
・高齢者図書お届けサービス	施設8ヶ所、配本数3,163冊
・雑誌スポンサー制度	登録企業10社、16誌
・図書館バス巡回	31ステーション、巡回日数163日、利用件数5,109件 貸出本数74,925冊
・まちなかライブラリー	市内11郵便局、660冊配本
・図書宅配サービス	6月4日～20日（月曜日除く） 172件、768冊
担当課・担当	図書館

Ⅳ 学識経験者の意見（総評）

○ 小林 淳一 氏（北海道教育大学釧路校准教授）

我が国の基本的な教育方針（学習指導要領並びに幼稚園教育要領）の要点を押さえ、根室市の地域性や実態に配慮した教育行政方針が示されている。コロナ禍における新しい生活様式・教育方法の構築と、ICT教育の推進という今日的な課題に真摯に向き合い、主体的に生き抜く力を涵養するために必要な準備や支援が整理された報告であると評価できる。今年度は、新学習指導要領が小学校に続き中学校でも完全実施されることになったため、理論に基づく確かな実践を推進するとともに、教育成果の把握と検証を丁寧に行い、今後の発展の基礎資料として蓄積していくことが一層重要になるであろう。

令和3年度に関しても、コロナ感染拡大防止の観点から、様々な事業や諸活動が当初方針から変更・制限を余儀なくされたのは、市民の命を守るという最重要事項を鑑みればやむを得ない。また、予算や人材の加配、国や北海道との連携など、教育に関する事務管理のみで根本的な解決を図れない点については、限られた条件の中で最善を尽くそうとしており、これからも関係部署と連携しながら粘り強く取り組むことを期待したい。

若手教員や教員を目指す若者の確保については、道内のみには期待するのは現状厳しい。ふるさと学習の一環として、根室市の郷土愛を一層高めるキャリア教育を推進し、地元出身の教員を確保する長期的視野に立った方策と、募集案内を広く全国展開する即時的な方策の双方を検討する価値があると考えます。

各種行政方針における個別の意見は、下記の通りである。

（１）社会を生きる力の育成

- ・ コロナ禍におけるGIGAスクールの在り方について、具体的な学習環境・インフラ整備が完成したことは高く評価できる。
- ・ インクルーシブ教育の推進や個別最適な学習支援等、これからの学校教育に必要とされる教育内容や方法を念頭に置き、昨年に続き適切な方向性を示している。
- ・ 全国学力・学習状況調査に関しては、方向性や内容は確認できるが、現状抱えている本質的な課題が何であるのかを示されていないため、改善の妥当性を評価できなかった。
- ・ 幼稚園から高校までの教育連携の視座と取り組み成果は評価できる。一貫したふるさと学習をカリキュラムとして体系化し、確かな学力と郷土愛を育み、将来の教員を養成する契機にすることを検討していただきたい。
- ・ 特別な支援を要する児童・生徒への配慮は、ソフト・ハード両面において評価できる。

- ICT を含む新しい教育実践について、その環境が整備され充実したと評価できる。今後は、適切な実践を展開するための、質の高い研修会等を積極的に増やしてほしい。

(2) 豊かな人間性と健やかな体の育成

- 心の健康を育成するため、昨年に引き続き新学習指導要領で教科化された道徳の時間を中核に、子どもの豊かな人間性の形成を推進する基盤の育成が図られたことが示されており、今後より深い学びの実現が期待できる。
- 「根室市いじめ防止基本方針」に基づいた、協働性の高い連携活動が展開されている。
- 「子ども会議」について、SDG's の視点を踏まえたジェンダー平等を扱ったことが評価できる。一方、SDG's 自体は、報告書全体を通してこの点にしか見当たらない。当該活動を通じた教育展開を教育委員会としてするのであれば、17 の目標の意味と関連性を押さえ、他の行政方針にも各目標を浸透させ総合的に取り扱うことも検討する価値がある。
- 電子メールによるいじめの相談受付体制については、実際の相談件数の把握や内容の検証が必要である。最近の児童生徒のメール活用頻度の低下を考慮した支援体制の検討を期待したい。
- 男女混合名簿、男女平等教育が実施されたことを受け、どのような成果が得られたか今後追跡調査してほしい。
- 「スイッチオフ22」運動の継続実施より、健全な生活習慣を身に付ける方向性を示したことは評価できる。
- 子どもの芸術体系分野の成長を支援する取り組みは、コロナ禍において特に制限の厳しいものである。その中でも、運営方法の検討や代替措置を十分に講じていると評価できる。
- 「北方領土学習」、「ふるさと学習」、「ふるさと給食」、「子どもブックライフ応援事業」等、子どもの社会的な健康に大いに期待できる方針が充実している。これら諸活動は、全てが密接に関連し合っているので、より協働的に統括し、相乗効果を生み出すことをさらに期待したい。
- 防災教育・減災教育の充実は重要である。防災キャンプの実施ができなかったのはやむを得ないが、リモート等で有識者の具体的な講演や、災害被害経験者の生の声を届けるような活動の拡大を検討してほしい。

(3) 子どもを育てる環境づくりの充実

- 教育環境の整備、耐震と危機管理、青少年の健全育成など、学校教育に係る多くの重要な項目を挙げ、状況を見極めながら的確に取り組んでいる。コロナ感染防止対策を踏まえながらも、着実な進捗が認められ、成果が期待できる。

- 保護者に向けた環境作りに関して、学校給食費の完全無償化、給食費相当額の支給と確かな配慮ができています。
- 教員に対する配慮として、学校における働き方改革の推進と、教職員専用アパートの整備がされたことは評価できる。同時に、教員の働き方改革は、制度的整備をしても、個々の意識改革がされない限り根本的な解決は期待できない。学校教育指導室や教員研修等を通じた、きめ細やかな説明を推進してほしい。
- 青少年の健全育成に関連し、「子どもは地域で育てる」環境の醸成に努めたことは高く評価できる。今後ふるさと学習およびキャリア教育と連動し、地域を支える人材として育む組織的な取り組みになることを期待したい。

(4) 生涯学習活動の充実と文化・スポーツの振興

- コロナ感染防止対策が喫緊の課題の中で、規模の縮小やリモートへ置き換えながら、創意工夫がなされた活動を推進したと評価できる。
- 根室市の歴史・自然遺産は、国民全体の生涯学習の観点からみて重要な役割を担っている。今後も引き続き利用環境の充実と、積極的な情報発信を推進してほしい。
- アイヌ文化資料の充実については、文化の継承と理化学分析による科学的な探究の両方で成果があったと評価できる。他の地域との異同や相互関連性についても調査を期待したい。
- カラフトルリシジミのモニタリング調査及びその保護は、根室市のみならず、国家としても重要な施策である。今後も継続が大いに期待されると共に、「ふるさと学習」と連携し、児童生徒に貴重性と、その生息域が身近にあるという素晴らしさを伝えてほしい
- 指導者育成、最東端ねむろシーサイドマラソン等、人の往来と接触が避けられない目標が達成できなかったことは致し方ない。その中で、代替イベント「オンラインマラソン」により、1200名の参加を募って実現したことは、昨年よりも規模が拡大したことも含めて高く評価できる。
- 総合体育館の建設は、生涯学習やスポーツ振興等において大きな役割を果たす。不易と流行を見極め、大局的に慎重に基本構想を練り上げることを期待する。
- 市民の図書・学習活動の推進は、実施回数や参加人数の制限がある中で、その役割を果たした。図書宅配サービスの実施も評価できる。

○ 原 田 純 子 氏（根室市社会教育委員長）

（１）社会を生きる力の育成

① 全国学力・学習状況調査

- ・ 学力向上プロジェクト推進会議において、令和３年度に向け「個人思考と集団思考を取り入れた全校・全学級で対話ができる集団に」の提言のもと、すべての小中学校で授業改善に取り組んだことは評価します。個々の習熟度に合った学習指導で確かな基礎学力の定着を期待します。

② 個に応じたきめ細かな学習指導

- ・ 放課後教室等の指導員を活用した授業支援を行ったことで、１年生が落ち着いて授業を受ける態度の定着が図られたこと、その結果、学校と放課後教室の連携が深まったことを評価します。より詳しく、子ども一人一人の状況を確認、把握できるので今後も継続されるよう望みます。

③ 幼・保・小・中・高の途切れない連携

- ・ 中学校区の連携を進める組織「根室市学校連携教育研究会」が組織されたことで、小中学校間の連携推進が図れたことは、学力向上の面からも良い影響があると思うので評価します。
- ・ 長期休業中の高校生を講師とする学習会を光洋中学校で開催できたことは、中学生、高校生共に学びが多かったのではないかと感じるので、この取り組みは良いと思います。

④ 学力先進地の視察・教員招聘と研究組織による指導力向上

- ・ 学力向上プロジェクト推進会議による視察研修は、感染症拡大防止のためオンライン講話での研修ですが、実施できたことを評価し、子どもたちが主体的に学ぶための授業改善に役立てていただきたいです。
- ・ 全６地区ごとで児童生徒の実態を考慮し、生徒理解を図りながら小中学校の連携を進めることができたことは、子ども達の学力向上に欠かせないと思うので、今後も連携を深めるよう期待します。

⑤ 特別な支援を要する児童・生徒の学習活動の支援と通級指導教室の開設

- ・ 市内小・中・義務教育学校１０校に特別支援教育支援員、１校に介助業務員を配置し、通常学級に在籍する支援を必要とする児童生徒の支援充実については、今後も連携して継続が必要であり、市内３小学校に通級指導教室が開設され、特別支援教育が充実したことを評価します。

- ⑦ 対面指導によるオフライン教育とICTによるオンライン教育を組み合わせた教育実践
- ・ オンライン学習は、今後、様々な活用方法が増えていくことが予想されるので、環境整備が図られていることは評価します。対面とオンライン双方のメリットを最大限に生かした教育の進展を期待します。

(2) 豊かな人間性と健やかな体の育成

② いじめ対策に向けた子ども会議の開催

- ・ 昨年中止になった「子ども会議」が開催されたことは良かったです。今回はジェンダー平等をテーマにした話し合いでしたが、今後も様々なテーマで継続し、多くの児童、生徒が参加できるような形が望ましいと思います。
- ・ 「いじめ」について、子ども達自身が、「いじめ」とは何かを本当に理解しているのか、タブレット配備を活用し、アンケートをとるなど今後検討してはいかがでしょうか。

③ 不登校等の児童・生徒に対する学びの保障

- ・ 不登校の児童・生徒との関わりでタブレット端末を活用した指導を実施し、学びの保障につながっていることは良いと思われました。どんな形でも学ぶ権利が保障されるのだということを実感してもらい、未来に希望を持ってほしいと願います。

④ 男女平等教育

- ・ 今まで当たり前前に男性、女性別に名簿が作られていて、長い間、疑問に思わずにいました。今後は、本当の男女平等の感覚を、各世代で認識しなければならないと感じ、今回の施行方針は評価します。

⑤ 基本的な生活習慣の確立

- ・ 子どもたちのネット利用に関する家庭のルールづくりの啓発は今後も重要であり、毎年継続していただきたいです。

⑧ 子どもの読書活動の推進

- ・ 第2期「根室市子ども読書活動推進計画」に基づく「子どもブックライフ応援事業」の取組について、執行率100%は評価します。
- ・ 絵本講演会は、根室のサンマを題材にした絵本なので、子ども達がより親しめたのではないのでしょうか。講演会を図書館だけでなく、学校でも行われたことは、絵本に興味を持ち、読書推進にも繋がると思うので、今後も開催の継続を願います。

⑨ ふるさとに関わる教育

- すべての学校で、地域の特性を生かしたふるさと学習の取組をされていることは、評価します。根室の歴史や自然を学び、子どもたちが根室を誇りに思う教育の実践を願いたいです。
- 北方領土に関する学習は、北方領土返還要求運動原点の地である根室のふるさとに関わる学習として今後も続けて、北方少年少女塾の参加も組み入れていただきたいです。

⑩ 防災教育

- 子ども達自らが身を守るための、実践的な防災教育が必要であると思います。防災キャンプの実施が中止になったのは残念であり、4年度にはぜひ実施されるよう望みます。

(3) 子どもを育てる環境づくりの充実

① 安全・安心な学校環境の整備

- 旧啓雲中学校を花咲小学校校舎に転用するための改修で、バリアフリートイレやエレベーターが更新されたことは評価します。身体に障がいがある子どもも安心して通うことが出来る校舎を提供することは、責務であると思います。

② コミュニティ・スクールの試行

- 学校、親、地域が協力して取り組むコミュニティ・スクールに期待します。

③ 学校給食費の無償化

- 学校給食費の完全無償化の実現は素晴らしいです。また、アレルギーがあり、給食をとることのできない児童への給食費相当額の支給についても公平で良いと思います。

④ 学校における働き方改革

- 教職員の業務改善に今後も取り組んでいただき、残業が減ってゆとりのある生活ができる環境整備を進めて頂きたいです。

⑤ 青少年の健全育成

- 「教えて地域の先生」で、小中学校の授業で学業以外の学びを得ることは、子ども達の成長にとっても重要だと思います。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で予定していた事業が中止になったことは残念です。今後は、オンラインでも開催できるような環境整備も必要だと思います。

子ども達が様々な体験から成功や失敗を学び、喜怒哀楽を経験し成長していく過程で、自主性や主体性が育まれ、社会を生きる力となるものと考えています。例えば、地域の課題について、子ども達の自由な発想から生まれる意見や要望を発表する、子ども議会のような企画で大

人と対話する取り組みなどは、自ら考え行動する力を引き出す支援に繋がるのではないかと考えています。

(4) 生涯学習活動の充実と文化・スポーツの振興

① 生涯学習活動のさらなる活性化

- ・ 対面とオンライン両方のメリットを生かした生涯学習の推進を図って頂きたいです。コロナ禍により、人の出入りが制限されたこともあって、市民の活動が停滞しているような気がして残念な気持ちです。オンラインを活用した生涯学習が今後は増えていくと考えるので、大型スクリーンでリモート参加できるような整備を望みます。

② 根室市総合文化会館における市民の芸術文化活動支援

- ・ 新型コロナウイルス感染症防止のため、計画を中止した事業もあった中で、オンラインと対面とを活用して、事業開催できたことは評価します。

③ 飯田三郎資料展示・文化会館施設整備

- ・ 元の喫茶コーナーを飯田三郎資料展示の調査でどのように整備されるのか、気になるところです。新型コロナウイルス感染症を見据えながらも、市民が休憩できるコーナーがあると良いなと思います。
- ・ 文化会館入口の、テーブルで仕切られている所をパーテーションポール等に変えることはできないでしょうか。市民の感染対策が定着してきているので、もう少し入りやすい空間に戻れば良いなと感じています。

④ 市民の読書・学習活動の推進

- ・ 図書宅配サービスは高齢で出かけることを躊躇されている市民にも利用しやすいサービスと感じましたが、選書についてはどのようにしているのか、図書館蔵書検索システムはとても使いやすいと思うので、広く周知することが必要だと思っています。

○ 谷川昭次氏（根室市PTA 連合会会長）

（1）社会を生きる力の育成

- 学力向上のために色々工夫しているようですが、授業を受ける子供たちの準備も大切と感じる。学校に来て眠そうだったり、空腹だったり、集中力が散漫だったりすると幾ら授業を工夫しても意味がないのではないのでしょうか。十分な睡眠をとり、朝食をきちんととる。そして歩いて学校に通い心身ともに授業に備えるようにして欲しいと思います。そのためには望ましい生活習慣が根付くような指導が必要だと思う。これには、各家庭の理解と協力が必要で保護者の皆さんの指導も必要なのではないのでしょうか。
- 授業改善推進チーム3名による巡回で授業改善に取り組み効果を上げていることに関しては素晴らしいことと思うのでこれからも続けてほしい。
- 学力向上等補助教員の配置が予定数の確保ができなかったとのことですが、引き続き確保に向けて行動してほしい。特に若い教員にこだわらなくてもよいのではないのでしょうか。
- 放課後教室等の指導員を活用して小学校1年生を中心に授業を行い、落ち着いて授業を受ける態度の定着が図られたのは素晴らしい成果だと思う。幼稚園や保育園での生活からのギャップがあるので、最初は落ち着いて授業を受けられない子もいるかもしれないが、放課後教室等がうまく活用できるのであればこれからも続けてほしいと思います。
- 幼稚園・保育所・小学校の連携及び小中学校の連携に関してはこれからも続けてほしい。担当の先生が転勤になったりして変わってしまったとしても連携が途切れないようにしてください。
- 学力先進地の視察・教員招聘が新型コロナウイルス感染症防止拡大防止のため中止になっていたのをオンラインで開催できたのは今後につながると思います。これからまた実際に現地へ行けるようになり、現場の空気感と共に学べるようになる事を願っています。
- 通常学級在籍の特別な支援を要す児童・生徒への支援充実を図っているのは良い点だと思う。児童・生徒個別の特性を診断できるような専門家の面接と意見と伺い、個別の特性に対する特徴や対処の方法などを先生達と保護者の間で情報を共有できる機会があると良いと思う。

（2）豊かな人間性と健やかな体の育成

- 教育委員会・学校・家庭・地域が連携しながらいじめの未然防止・早期発見・早期対応を行ったとありますが、子供たちが信頼し安心して相談できる人物と環境を整えることが重要だと思います。

- 昨年は実施できなかったいじめについて子供たちが自ら考える「子ども会議」が、実施できたのは良かったです。この問題を子供自らが考える事にはとても意義があると思います。
- 「スイッチオフ22」というのは22時に電源を切るという取り組みなのでしょうか。小学生も中学生も同じ時間でよいのかは疑問だし、そもそも22時だと遅いと思う。もっと早い時間にしたほうが良いのではないのでしょうか。
- みらいのアーティスト・アスリート応援事業は、文化やスポーツで活躍した人によって話を聞く機会があるというのは子供達にとってとても意義のある事だと思うのでこれからも続けてほしいと思います。
- 子供達が本との出会いの場がある事や読み聞かせの場を設ける事はとても良いと思う。
- 北方領土学習・ふるさと学習・ふるさと給食については、地元の問題や歴史それに自然や産業・生産品を理解し感じる良い機会だと思う。
- 防災キャンプは実施できなかったみたいですが防災教室を開催して、防災の知識を学び実践できた事は子供たちにとってとても良い経験であったと思う。

(3) 子供を育てる環境づくりの充実

- 歯舞学園にコミュニティ・スクールのモデル試行を実施したみたいですが、これからの導入に向けて良い経験になったのではないのでしょうか。
- 学校給食費保護者負担の軽減についてはありがたい事だと思うし、続けられるのであれば是非続けてほしいと思います。
- 学校における働き方改革に関しては多少進んできていると思いますが、今後もっと進めていかなければいけないと思います。
- 教職員専用アパートの整備に関しては、今までの建物がかなり古いこともあり気の毒だと感じていました。とくに根室に来る先生は新卒や若い先生が多いのでなおさらそう感じていましたが、新しくなったので良かったと思っています。今後も増やしてほしいと思います。
- 地域の専門的な知識や経験を有する「教えて地域の先生」がボランティア講師となって授業をしてもらえることは素晴らしい取り組みだと思う。

(4) 生涯学習活動の充実と文化・スポーツの振興

- 公民館活動による生涯学習活動や文化会館における文化振興に関しては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した事業が多くあったと思います。オンラインを活用す

るなどして開催した講座もあるようですが、慣れるまでは高齢者にとって敷居が高くなってしまったのではないかと感じます。

- 歴史・自然遺産を有する文化財を適切に保存することと、調査、研究の成果をまとめた資料を作成し次代に伝える取り組みは大事だと思う。
- 最東端ねむろシーサイドマラソンの代替イベントである「オンラインマラソン」が、全国から千人以上の参加者が集まったことは素晴らしいことだと思う。実際にコースを走れないのは残念であるが、オンラインマラソンであっても全国から選手が集まるこの大会を大事にしてほしい。
- 市民の読書・学習活動の推進について、緊急事態宣言で図書館を休館にする中で、図書宅配サービスを実施するなど、家庭での読書環境充実のために取り組んでいただいたことに感謝します。